

# 猪熊弦一郎展 いのくまさん

会期 2025年4月12日(土)－7月6日(日)

会場 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 展示室B

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

画家の猪熊弦一郎(1902-1993)を、詩人の谷川俊太郎(1931-2024)が紹介する絵本『いのくまさん』(小学館、2006)。本展では、この絵本につづられた谷川のことばとともに、猪熊の絵画作品をご紹介します。

本書は、子どもに猪熊を紹介したいと、当美術館が谷川さんに依頼してできたものです。遠足で子どもたちが美術館に来たときに、みんなで楽しく作品を観てまわるのと同じような体験ができる、子ども向けの本をつくりたい、と段ボール一箱分の資料を送って谷川さんをお願いしました。一週間後、編集者の市河紀子さんから、谷川さんが受けようと思うとおっしゃっていると連絡をもらい、さらに二週間がたったころ、今度は谷川さんご本人から電話があって、ひとつだけ質問を受けました。これから文章を考えるのかなあと、のんきに構えていたら、なんと翌日、市河さんのところに構成試案が届いたのです。2004年のクリスマスのことでした。

谷川さんの試案には、絵本の見開き順にことばと絵の構成が記されていました。

## こどものころからえがすきだったいのくまさん おもしろいえをいっばいかいた (幼年時代と老齢になってからのアトリエでの写真・子ども時代の絵などコラージュ)

それは、253文字のひらがなでつづられた、楽しくて美しい詩でした。そして、みごとに猪熊の全体像があらわされていたのです。出版当時、「この絵本をおもいっきり自慢してください」と谷川さんをお願いしたら、次のような回答がきました。<sup>\*1</sup>

### こんな絵本はMoMAにだって作れないだろう！

本書が出版されてから、猪熊弦一郎は「いのくまさん」と親しみをこめて呼ばれるようになりました。ごく自然に広まったので、ずっと昔からそう呼ばれていたように思われていますが、実はこれ、谷川さんがつけたニックネームなのです。

2007年の当館を皮切りに、この絵本をもとにした「いのくまさん」展が全国各地でこれまで8回開催されました。谷川さんのことばを通して、今も多くの子どもたちが猪熊の絵に出会っています。

\*1 『MIMOCA NEWS 014』(財団法人ミモカ美術振興財団、2006)

古野華奈子 (シニア・キュレーター)

